

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 4 日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530760

研究課題名(和文) 知的障害者支援専門職員の現任研修プログラムとその評価に関する研究

研究課題名(英文) Development of the training session that was provided for the professional members to gain skills that are essential elements of the community support, the evaluation system for the training session.

研究代表者

竹之内 章代 (TAKENOUCHI, Akiyo)

東海大学・健康科学部・講師

研究者番号：90296062

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：知的障害児者への支援の質は、彼らの地域生活をいかに支えられるかにある。本研究では、その質の向上をめざした現任研修プログラムを作成し、それを評価する方法を開発した。研究代表者らが作成した現任研修プログラムは、地域生活支援のために必要な家族への視点や地域における支援システムの必要性を形成することに効果があることが確認された。その際に用いた研修の効果測定尺度や作業の成果物によるポートフォリオ・アセスメントによる研修評価の仕組みについても、地域生活支援に視点を置いた研修の特徴を表し、評価するものとなった。

研究成果の概要(英文)：We made a training session that was provided for the professional members to gain skills that are essential elements of the system, such as assessment and planning, plan and resource connection management, and resource development skills. And we made the evaluation system for the training session. Including the attitude scales, and portfolio-assessment that these members created a diagram in order to give a concrete form to the system.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：知的障害福祉 福祉専門職 研修プログラム開発/評価

1. 研究開始当初の背景

(1)2000年の社会福祉事業法等の改正、いわゆる社会福祉基礎構造改革によって契約制度が導入されて以降、知的障害児者への福祉サービスの質の評価と、その向上のための方法の開発は重要な課題となった。

(2)ここで言う福祉サービスとは、地域生活支援を原則としたものであり、それまで、その質の検討がされることの多かった、ダイレクト・サービスではない。それは、知的障害児者本人、家族、地域、制度に至る、ミクロからマクロへ連続した支援をおこなうこと、いいかえれば、地域において、ケアマネジメントの技法を中心とした、システムを用いて支援をおこなうことである。

(3)研究担当者らは、これまで数多くの知的障害児者福祉施設職員の現任研修を手がけてきた経験から、地域生活支援の質の向上をめざした「現任研修プログラム」の開発に取り組んでいた。

2. 研究の目的

(1)本研究では、まず、知的障害児者の地域生活支援の質の向上をめざした「現任研修プログラム」の作成を目的とした。

(2)その現任研修プログラムの評価方法を開発することを、次の目的とした。

3. 研究の方法

(1)対象

本研究の対象は、知的障害児者福祉に携わる障害児者福祉サービス事業所職員、保育士、幼稚園教諭、保健師に加えて行政担当者を対象とした。また、地域としては東日本大震災の影響を受け、障害児者福祉サービスの地域生活支援の必要性が高まる東北地方A市とした。

(2)手続き

研究開始当初、試案として作成していた「現任研修プログラム」(4回の研修で完成するもの)を実施し、研修の事前事後にアンケートとして、先行研究をもとにした態度尺度、満足度尺度、自由記述による感想を得て、比較することによって、プログラムと評価方法の妥当性を検討する。

次いで、研修プログラムの評価を多方面から行うために、研修受講者による地域支援システム構築を目指したワーキングを行い、そこでの作成物(地域資源把握のためのマップ、説明資料やシステム図など)を用いたポートフォリオ・アセスメントを実施した。

(3)倫理的配慮

本研究の実施にあたり、研修プログラムの実施を担当した研究分担者の所属する東北福祉大学研究倫理審査委員会の承認を得た。

4. 研究成果

(1)「現任研修プログラム」の妥当性につい

て

検討に用いた研修プログラムの概要は下表の通りである。

表1 研修プログラムの内容

- ・ 第1回：地域支援システムの必要性
 - ・ 講義
 - ・ 演習：現状の社会資源とのかかわり・エコマップの作成
- ・ 第2回：地域支援のための相談技術
 - ・ 講義
 - ・ 演習：模擬事例を用いた相談場面のロールテイク
- ・ 第3回：地域支援のためのアセスメント、支援計画の作成
 - ・ 講義
 - ・ 演習：模擬事例を用いた支援計画の作成と必要な資源のネットワーク化・エコマップの作成
- ・ 第4回：地域支援のためのネットワーク運営
 - ・ 講義
 - ・ 演習：模擬事例を用いたケア会議の実施

この研修の前後に下記のような項目を含むアンケートを実施した。

表2 研修アンケートの内容

- ・ 研修に対する考え方 「日々の仕事の中で自分の力量が不足していると感じる」・・・
- ・ 実践の中で困難を感じる事 「利用者の行動が理解できず、対応できない」・・・
- ・ サービス態度尺度 「障害児者の支援をしていると、自分が必要とされていることを痛感する」・・・

その結果、対象とした集団内では有意な差をもってサービス態度尺度得点が上昇し、実践の中で困難と感知することが、直接利用者の支援にかかわることから、家族との関係のとり方や他機関との連携や情報共有の不備などに変化した。

また、感想の自由記述は、

- ・ 利用者本位の考え方の体験的理解
- ・ 子育て・家族支援の必要性の理解
- ・ 支援ネットワークの必要性の理解

とカテゴライズされた。これらのことから、本現任研修プログラムには、地域生活支援に視点をおいたサービスの質の向上に、一定の効果があるとした。(最後にまとめた表を記載)

(2)研修プログラム評価方法の開発について
上記の研修アンケートに用いた項目に併せて、研修中、あるいは終了後の作業で作成された説明資料やエコマップ、システム図な

どを用いたポートフォリオ・アセスメントを実施した。その一例を下図に示す。

この場合、研修事前に作成したエコマップでは本人、家族と社会資源が単に結びつけられているにすぎず、その資源の内容も福祉サービスに限られ、インフォーマルな資源には視点が当てられていない。一方、事後に作成したものは、資源同士のまとめり（ネットワーク）が示され、同時にインフォーマルな資源も書き込まれるようになって、確実に地域支援に必要なシステム思考が進んでいることがわかる。

(3) 今後の展望

本研究により、地域生活支援に視点をおいたサービスの質を、現任研修という形で向上させられることがわかった。

また、態度尺度や満足度尺度などで研修の効果を測定することにも一定の妥当性を確認できた。それに加えて研修中や研修後の作業で作成した成果物を用いたポートフォリオ・アセスメントが、研修の効果測定に利用できる可能性を見いだした。

今後は、研修プログラムをブラッシュアップしつつ、評価データを積み上げ、評価尺度やポートフォリオ・アセスメントで構成する研修評価システムをより信頼性の高いものにしていきたい。そのために対象を入所施設職員などにも広げ、広範囲なデータの収集を行う必要がある。

研修の評価 - 気づき、学びの質的分析から

- ・ 利用者本位の考え方の体験的理解
 - ・ 子どもの行動の背景にはいろいろな要因があることがわかった
 - ・ 家庭など全体を見た上で初めて子どもの立場に立てると思った
- ・ 子育て・家族支援の必要性の理解
 - ・ 母親自身を深く理解し、受容していくことの大切さがわかった
 - ・ 母親、父親さまざまな立場の気持ちを考え支援していきたい
- ・ 支援ネットワークの必要性の理解
 - ・ 支援に至まで、また支援にはさまざまな糸口がある
 - ・ 子ども、家族を多くの目で見、それをまとめていくこと

研修の評価 - ポートフォリオ・アセスメントの例

エコマップ



事後に作成したもの 1



事後に作成したもの 2

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 計 2 件)

地域支援に視点をこいた専門職研修の効果測定を試み-発達障害児地域療育支援を例に、日本社会福祉学会第 60 回秋期大会、竹之内章代、三浦剛、2012.10.21、関西学院大学上ヶ原キャンパス(兵庫県)

地域支援に視点をこいた専門職研修の効果測定を試み-第 2 報効果測定方法の妥当性の検討、日本社会福祉学会第 61 回秋期大会、竹之内章代、三浦剛、2013.11.30、北星学園大学(北海道)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕
ホームページ等 なし

6．研究組織

(1)研究代表者

竹之内 章代 (TAKENOUCHI Akiyo)
東海大学 健康科学部・講師
研究者番号：90296062

(2)研究分担者

三浦 剛 (MIURA Tsuyoshi)
東北福祉大学・総合福祉学部・教授
研究者番号：00209719

(3)連携研究者 なし